# 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100375				
法人名	法人名 社会福祉法人 紀伊福祉会				
事業所名(ユニット名)	グループホームてまりの里				
所在地	和歌山県和歌山市府中20-1				
自己評価作成日	平成26年12月13日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日		

# ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成27年1月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームてまりの里は、ご利用者やご家族様と信頼関係を築き足を運んで頂き易いアットホームな事業所です。職員は笑顔をモットーとして、サービスはオープンにし、くつろげる空間作りに心をくばっています。まだ"認知症の改善"と"普通の生活をする"をコンセプトに、科学的介護を実践しています。 具体的には水分1日1500cc以上摂取、しっかり運動(歩行・体操等)し、常食を摂り自然排便を目指してます。これを根気よく実践し夜間の不眠者、昼間のオムツ使用者、便秘薬の使用者が、ほぼなくなり生き生きとした日常生活を送って頂けています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は複合施設の1階部分にあり、小規模多機能の事業所と連携を図り、玄関は施錠せず自由に出入りができ開放的である。職員は「認知症の改善」と「普通の生活をする」をモットーとし、水分摂取、運動、食事に気を配り、自然排便ができるよう「科学的介護」を実践している。また主治医とのカンファレンスを週に1回開催するなど密に連携をとり、夜間は看護師に連絡を取れる体制にあるなど、医療面においても家族、利用者が安心して生活が送れる体制が整っている。職員は向上心をもちお互いに刺激しながらケアの質の向上に努めている。

## ▼. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

項目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 当するものに○印
56 を掴ん	は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 んでいる 号項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 め て	は員は、家族が困っていること、不安なこと、求 けていることをよく聴いており、信頼関係ができ いる 参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 があ	者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 る 号項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 域	いの場やグループホームに馴染みの人や地 なの人々が訪ねて来ている 参考項目:2,20)	0	1. ほぽ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
	者は、一人ひとりのペースで暮らしている 号項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 係 の	営営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所は解者や応援者が増えている参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 表情·	者は、職員が支援することで生き生きした や姿がみられている §項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職	桟員は、活き活きと働けている 参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 る	者は、戸外の行きたいところへ出かけてい ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		战員から見て、利用者はサービスにおおむね満 としていると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 く過ご	者は、健康管理や医療面、安全面で不安な ごせている 号項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		战員から見て、利用者の家族等はサービスに おむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
利用:	者は、その時々の状況や要望に応じた柔	O 1. ほぼ全ての利用者が				

	<u> </u>			( C) P 10 DX   1 I B 1 ( CITCO )	
自	外	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	自己評価	外部評価	<b>T</b>
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		こ基づく運営	JUDA 17170	700 N/M	)(************************************
	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	所理念をつくり、管理者と職員は、その理念	事業所は、理念を居間やその他目に付き易いところに掲示したり、毎朝のミーティング時に唱和するなど意識付けを図っている。また、管理者や職員は理念が日々のケアに反映されているか日頃より職員間で話し合い理念を共有して実践につなげている。	
2		〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	地域とのつながりを持てるように、地域行事、買い物等に出かけ、地域の方々と交流を持ち、顔なじみとなれるよう努力しています。地域のサンサンセンターや自治会主催の文化まつり、県のふれあい作品展にも、ご家族と一緒に参加しています。	地域の文化祭りや盆踊りに毎年参加したり、法人の特養に小学生が訪問する際には、利用者も一緒に特養に出向き交流している。また地域のボランティアの方々が草抜きや話し相手に事業所を訪れるなど相互に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	研修会を行っています。また「てまりランド」や「クループ通信」を発刊して認知症の啓発に努め、ご家族や地域の方々に、ご理解頂き相談者には納得いくまで説明を行っています。		
4		〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	運営推進会議では、ご本人、ご家族様、地域の 代表者の方々、専門的立場の方々、地区の支所 長様や第三包括支援センターの方々に来所頂 き、ご利用者の現状報告、サービスの実際、認 知症への取り組み状況について報告や話し合い を行い、そこでの意見や要望などを持ち帰り即 サービスの向上に活かしています。	会議は2ヵ月に1回開催されており、施設長、管理者、包括職員、利用者、家族、地域の代表者、福祉の専門の方達が参加している。会議では事業所の現状報告や行事報告、施設長からの地域へ向けたサービスの提案など話し合いが行われ、そこから得た意見や助言をサービス向上に活かしている。	
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広報誌「てまりランド」を市町村に置いて頂いています。グループホーム独自の「グループ通信」も年4回発行し運営推進会議には、地区の支所長、第三包括支援センターの方々に参加頂き、地域や市制の情報やアドバイスを頂戴しています。日頃からも相談し地域行事に参加するなど、協力関係を築くように取り組んでいます。	第3包括支援センターに福祉サービスの申請を依頼したり、センターから新規の利用者の相談や認知症の方の相談がある。また市の介護保険課には法人の広報誌を置き事業所の取り組みを伝えるなど協力関係を築いている。	
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる	ないケアを実践しています。ご利用者がお出かけになろうとされた時「どうかされましたか?」という言葉だけでも拘束の一種であるという認識でケアを行っています。玄関や居室の施錠をしない事は当然の事ととらえています。	身体拘束の内部研修は定期的に行っており、スピーチロックやフェイスロックも身体拘束になることを正しく理解し、職員間でお互いに注意しあっている。また日中は玄関の施錠はせず、自由に出入りができる環境にあり併設の事業所と連携を取り職員が相互に声を掛け合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止マニュアルがあり、職員の死内研修や勉強会を行い、職員の日々の言動が虐待にならない様、職員間でお互いに常に原点に戻りお世話をさせて頂いているという気持ちを持ってお互いに見逃す事の無い様指摘し合い、虐待の危険を早期に見つけ、改善し、処遇に当たるようにしている。		

自	外		自己評価	外部評価	ш
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	権利擁護や成年後見制度の研修会に参加しています。パンフレット等を施設入口に置いています。必要なご利用者にはこの制度がある事を説明し制度が活用されるよう支援しています。先日1件の相談があり、ご利用されました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書をもとに、入居時に十分に説明を行い、ご利用者様とご家族様に納得して頂いた上で安心してサービスのご利用をして頂ける様に努めています。何か問題が起こった時などは、即話し合いの場を持ち迅速に対応しています。		
		に反映させている	ご家族がご面会に来られた際には必ずお声をかけ、ご利用者様やご家族様に直接ご意見、ご要望を伺ったり2カ月に1回運営推進会議を開催し、話し合った内容を事業所に持ち帰り、話し合い運営に活かすようにしています。玄関先に設置している、ご意見箱にも、ご利用者様の意見が入っていたりします。	運営推進会議や家族が来訪の際、必ず職員から声をかけ話しやすい雰囲気を作っている。家族から職員の名前がわからないとの意見を受け、玄関に職員の写真を掲示し、本日の出勤者も表記するなど、出された意見を真摯に受け止め運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に代表者、管理者は常に参加し職員の意見提案を聞いている。会議だけでなく、何かあればその都度、その都度何時でも 耳を傾ける様に努め、それらの意見を運営に反映させています。	管理者と職員の信頼関係が築かれており、 普段から意見や提案など話しやすい環境に ある。利用者の活動性を上げるためにイー ジーウォーク、踏み台昇降機、歩行器などの 購入の提案を受ける等、それらの意見を運 営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、勤務時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めています。有休や公休も本人の希望を考慮しています。又、モチベーションを上げる環境の整備を行っています。		
13		の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	代表者は外部の研修案内は回覧し、勤務時間に考慮し、研修はできる限り受けられる様に勧めています。又、希望があれば参加出来るように配慮しています。介護技術はその都度、その場で指導し、実践に生かしています。		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	同業者との交流はないが、外部研修時にお 互いの情報、意見交流を行っています。母 体の施設との交流も時々行い、相方共、事 業所の良い所を吸収し改善点は見直して、 サービスの質の向上を図っています。		

自	外	<b>福</b> 日	自己評価	外部評価	ш
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.3	えいと	:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの契約に至る迄、ご本人やご家族の話をお伺いする機会を充分持ち、施設内の見学をして頂き、環境が変わっても以前と同じ様な生活をしていただける様に努めています。ご本人様が不安なく生活して頂ける様に信頼構築に努めています。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	ご家族様に、ご利用者様の今迄の暮らしや性格等を細かくお聞きし、ご希望の生活、要望を取り入れた生活を継続し、生活の状況を細かくお知らせしたり、ご本人様が生活に慣れるまで度々来苑して頂ける様にご家族にお願いしています。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や、ご家族から困っている事等を、 しっかり聞き検討し、見極め、必要なサービ スを提案する等適切な対応をしている。必 要に応じて、他のサービスを紹介するように しています。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の得意とされる分野の事など、長年生きて来られた、人生の経験、先輩として、 色んな事を教えて頂いたり、昔から慣れ親し んだ年間の行事など、皆様とスタッフが話し 合い、一緒にグループホームの行事を作 り、共に参加し支えあっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族とのつながりが強いほどご利用者の生きる力も強いとの思いから、外出行事等で、ご家族様に、ご協力いただき、ご利用者を一緒に支える仲間としてお願いしています。一緒にお出かけ、一緒にお買い物、一緒に遊ぶ等していただいています。		
	•	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方に葉書を出したり、お電話をしたりする支援を行ったり、訪問して下さる方には、ゆっくりと、ご利用者様と過ごしていただけるよう配慮しています。時々、馴染みの方から電話があり、お話しされていることもあります。	地域の方や親戚の方が利用者に面会に来られたり、また利用者が手紙を出したり電話を掛けるなど関係が途切れないように支援をしている。家族の協力も得ながら馴染みの美容室に行く等支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに大きいテーブル3個と5人掛けのソファーや3人掛けのソファー2個置いていて、ご利用者が自由にお好みのソファーに移ったり一緒にお話しされる。時々、利用者間の中にスタッフも入り、きっかけを作るような支援もしている。ささやかな誕生会も催し、ご利用者様方と一緒に、お祝いをしています。		

自	外	-7 - 5	自己評価	外部評価	<b>T</b>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関	週末期をお迎えられた方々に対し、その後も、時 折ご家族様がご来苑されることがあります。契約 が終了しても今まで培われた関係は大切にし、 ご家族やご本人の経過もフォローし、相談や支 援に努めています。先日も、ご利用者様の奥様 より介護サービスを受けたいとの連絡がありまし た。		
${ m I\hspace{1em}I}$ .	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	,		
	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	お一人、おひとりの思いや暮らし方の希望を センター方式を利用して把握に努めていま す。食事、入浴、趣味、嗜好等を、ご本人主 体に考え、行うようにしています。困難な時 は関係者で話し合いを持ち解決していま す。	アセスメントはセンター方式を利用し希望や 意向を把握している。3ヶ月毎に行われる担 当者会議では利用者の希望や要望を職員間 で確認している。また、把握が困難な場合は 家族や関係者からも聞き取りをしている。	
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生活されていたときに使用していた馴染みの物を持って来ていただき、そのまま利用して頂いています。今までの経験をしてきた事柄を、これからの生活に生かしていただける様に努めています。		
25		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	常日頃から、おひとりお一人の食欲、顔色、活気などの状態把握や、排泄、水分量のチェック、入浴時、傷や皮膚の状態、必要であれば、バイタルチェック、異常があれば代表者や主治医に報告し指示を頂いています。		
26		した介護計画を作成している	介護計画については個別に担当者をつけ、ケアプラン会議で家族のご希望を伺い代表者、本人、必要な関係者と話し合い、その中で出された意見やアイディアを検討しより現状にあったものを作成している。より現状に即したということで3カ月に1回見直しているが必要に応じて見直すようにしている。	利用者ごとのカンファレンスは3ケ月に1回行われており、担当職員を中心に職員間で話し合い利用者、家族の要望を反映させている。また必要応じて主治医や看護師の助言を得て現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子や、ケアの実践結果、小さな気づきや工夫を個人の生活記録と医療面での記録に記入き、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族の現況、その時々に生まれる ニーズに対応し、既存のサービスに促わない柔 軟んな支援やサービスの多機能化に取り組んで います。小規模多機能型居宅サービスをご利用 の方を必要な時はグループホームで介護をした り、体験を受け入れたりしています。		

自	外	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	自己評価	外部評価	ш
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		暮らしを楽しむことができるよう支援している	お一人、おひとりが心身の力をできるだけ発揮しながら安全でより豊かな暮らしを楽しめるよう、地域包括支援センターとの協働はもとより、ボランティア、地域のお店や理美容、病院、郵便局、銀行、花屋、警察、消防、また近くのサンサンセンター図書館などを把握し、これらの地域の人や場の力を借りた取り組みをしています。		
30			入居時、かかりつけの医の希望を伺い、2週間に 1回の定期受診や往診を受けています。急な状態の変化があれば随時の電話相談や緊急往診 も受けられます。1週間に1回主治医が来られケアカンファレンス等があり、主治医と事業所の関係を築いています。	かかりつけ医の選択は本人と家族の希望にそっているが利用者全員が協力医療機関を主治医とし月2回受診している。必要に応じての他院受診時は家族が対応している。また主治医は週1回事業所を訪問し職員と会議を行うなど密に連携を取り、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	週に4回、月・火・木・土は担当の看護師さんが来所し、ご利用者様の様子変化等を見て先生に報告して下さり、適切なご指示を頂け、日々の変化があれば随時対応して下さり、ご利用者様が適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	利用者様の入退院の時、病院からのご指示やアドバイスを受けたり退院後に事業所としてできることを病院に伝える等、病院関係者との情報交換に努め、病院関係者との関係作りを行っています。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	サービスご利用時に看取りに関しての伺い書を書いて頂き、重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、事業者で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し主治医の先生や関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。もう数件のターミナルケアを経験しました。	利用者、家族には入居時に「看取りに関しての伺い書」を書いてもらい、重度化した場合や終末期のあり方について、主治医や施設長も交えて何回も話しあう機会を持っている。これまで何度か看取りの経験をしてる。	
34			利用者様の急変や事故発生時に備え、緊 急連絡体制が整っています。全職員は応急 手当てや、緊急時の対応の訓練を定期的に 勉強し実践力を身につけており、緊急時に は、即座に対応できるようにしています。		
35		利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、ご利用者様と一緒に地域の協力を 得て避難訓練を行っています。消防署の方 の指導を受け、安全に避難できる方法を全 職員が身につけています。地域との協力体 制も築いています。	消防署立会いのもと、併設の事業所や高齢者住宅と合同で年2回、利用者、地域の方々と一緒に避難訓練を行っている。また月1回併設事業所と合同で夜間想定の訓練や避難路の確認なども行っている。水、食料などの備蓄も準備されており、利用者の部屋には各々防災ずきんも準備し、浴槽には火災に備え常に水を入れている。	

自	外	75 D	自己評価	外部評価	<b>т</b>
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		<b>人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	全職員は、利用者様お1人おひとりの人格の尊重とプライバシーの重要性を認識しており、排泄の失敗や着替えなど、他者に知られない配慮や声かけなどは、その方の誇りやプライバシーを傷つけない様に細心の心配りに努めています。	呼称は「〇〇さん」と呼んでいる。トイレへの声かけはさりげなく、またその人の仕草や行動で察知し自分の部屋のトイレへ誘導し他の利用者にトイレに行ったことが分からないように配慮している。また個人ファイルなどは寮母室カウンターの下で管理されており外部から見えないようになっている。	
37		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人様が自らの思いや希望を表したり、自己決定が出来るように声かけの時は「~しませんか?」「~はどうですか?」など、疑問符をつけて話しかけるように、本人に決定権を出して頂けるように働きかけています。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは、職員側の都合でなく、ご利用者様の体調、気持ちや、個人のペースに合わせた支援を行っています。どのように過ごしたいかというご希望にそった支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	月一回の理美容の方が来所し、希望があればヘアーカットを受けられ、又、外出時やその日の行事等に合わせ、おしゃれをするなどの支援をしています。朝はきちんと着替えが出来ているか、整容や爪切り等も行っています。		
40		〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事は皆様が献立を考え、食材の買い出しに行かれ、調理はキッチンの周囲に集り、それぞれの得意な食材の調理に参加されています。米をとぐ事から盛り付けまで行います。食後の食器洗いや食器拭きも出来る方が「私洗うわ!」と言って出来ない方の分まで洗って差し上げてます。		
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	1日の栄養バランスを考えた食事や、水分摂取量が1日を通じてきちんと摂れているか、毎日個人別に水分摂取量チェック表を作って記入しています。少ない方には水分をゼリー状にして召し上がって頂いています。自力摂取が困難な方に対しては、バランス飲料なども取り入れています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	ご利用者の方々の口腔内の汚れや臭いが 生じないよう、又、病気予防の為毎日食後 に一人一人の口腔状態や、ご本人の力に応 じた口腔ケアを行い、清潔を保って頂くよう に努めています。		

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43			排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、お 一人お一人の力や排泄パターン、習慣を活 かしてトイレでの排泄や排泄の自立に向け た支援を行っています。パターンを把握する と失敗がかなり軽減されました。おむつを使 用しなくてもよくなった方もいます。	利用者一人ひとりの排泄パターンやその人の仕草、行動を把握し随時誘導することでトイレで排泄することができている。また自室のトイレに誘導することで落ち着いて排泄することができている。入居時リハビリパンツを使用していた人が布パンツに改善された事例もある等、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に	主治医の先生の指示のもと、お通じの薬の調整をし上手く排便でき、飲食物の工夫としては毎朝、ヤクルトやヨーグルト等の乳酸菌を摂取して頂き、食前体操は毎日3回必ず行ったら「の」の字書き体操をし、便秘予防に取り組んでいます。		
45		一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時や、夏の暑い日等は入浴剤を入れて気持ち良 く入って頂いています。	じる工夫もしている。	
46		一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後パジャマに着替えられた後、居室で過ごされる方もいらっしゃるし、居間に出て来られソファーに座られテレビをご覧になったり、ご利用者様同士で談笑されたり、就寝前の団欒を楽しまれるなどの環境を提供しています。不眠の方にはホットミルクをお出ししたり、暫く話し相手をさせて頂くなど、安心して眠れるように支援しています。		
47		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬の管理、支援と症状の変化の確認に努めています。服薬介助は慎重に行い、確実に服用して頂くように、症状の変化、確認、報告に努めています。		
48		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人が得意であるものがあり、料理が 得意である方は食事作りに取り組まれたり、習字 クラブに参加されたり、カラオケを歌われたり、野 菜作りやお花を植えたり、キーボードを弾いた り、お一人お一人の生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等の支援を行 い、生きる張り合いや喜びを感じられる様に努め ています。		
49	, ,	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か けられるよう支援に努めている 又 善段は行け	お一人おひとりの、その日の希望に合わせ暖かい月には近所へ散歩に出かけたり、買い物やドライブに行っています。又、ご家族とご一緒に出かける日を企画し、ご家族に提案し、ご家族様と一緒に協力しながら、ご利用者の行きたい所へでかけられるように支援しています。	庭のお花の水遣りをしながら日光浴をしたり、馴染みのスーパーに買い物に出掛けたり、地域の図書館や通院に行った際、お花を見に行くなど家族の協力を得ながら外出支援をしている。	

自	外	項目	自己評価	外部評価	<b>E</b>
自己	部	7	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ー緒にお買い物に行ったり、外出時、ご自分の財布を持っていき、ご利用者が選んだものをご自分でお金を払って頂き、お釣りを受けとるまで近くで職員が見守りをさせていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人に年賀状や暑中見舞い状も、ご利用者の希望により書かれています。遠方のご家族からは定期的にお手紙が送られてきたり、返信のお手紙も書かれています。「息子さんや娘さんの声が聞きたい、話したい」と言う方には、電話をかけてお話をして頂けるように支援しています。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気は毎朝必ず行い、エアコンの調整、空気の 乾燥、湿度には十分気をつけています。共通の 空間には季節の物を置く等の気配りをしていま す。ご利用者様にとって不快な混乱を招くような 刺激がないよう配慮しています。ソファーに座っ てご利用者様方が談笑されていたり、ご家族が 来られたら隣に座ってお話されたりしています。	大きなはき出しの窓からは光が差し、日光浴ができるほどである。その窓からは庭の花壇の花がきれいに見え、季節感を感じることができる。玄関には感染予防に手指の除菌スプレーやマスクを置き、温度や湿度にも気をつけ居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	お一人お一人が居心地がよく暮らして頂ける様、時にはスタッフがご利用者様の間を取り持ったりつなげたりしながら、良い関係を保ち、居心地がよいと思えるような居場所の工夫をしています。		
54	(20)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	てご本人が居心地よく生活できるよう工夫してい	居室には嫁入り道具の一面鏡や使い慣れた タンス、仏壇、家族の写真、テレビ、カーテン など好みのものを持ち込み、居心地良く過ご せるように工夫をしている。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	自立した生活を送れるように、ご自分のものはご 自分で管理していただき、出来ないことはスタッ フがご本人に悟られないようにさりげなく支援す るようにしています。お一人おひとりの身体機能 の状態に合わせて危険防止に努めつつ出来る だけ自立した生活が送れるように工夫していま す。		